

教育学部 学校教育教員養成課程 令和元年度「大学入門ゼミ」実施報告書

松下 幸司（教育学部附属教職支援開発センター）

（１）実施の概要

令和元年度の大学入門ゼミは、7クラス編成（1クラスあたり学生24名×7クラス）で実施した。全学共通コンテンツについては168名を2クラスに分けて実施した。教育学部学校教育教員養成課程においては、1～7組の授業教室が前期「大学入門ゼミ」のみならず、後期実施の「教職概論」（学部実地教育科目）までを通して“ホームルーム教室”となるよう、講義室調整を行った。併せて、担任教員の学生指導のクラス間連携を図るとともに、学生にも初年次教育の一体感・一貫性を感じさせるため、ホームルーム教室となる講義室を、中庭を取り囲む4・5号館2・3階にクラス番号順に並ぶよう集中配置して実施した（1組421・2組422・3組423・4組426・5組427・6組428・7組432）。（ただし令和元年度は年度が始まった後、5号館の改修に併せた428講義室の全学共通教育の準備室としての用途変更が急きょ知らされたため、年度内にホームルーム教室を変更せざるを得なかった。）本学部学校教育教員養成課程における令和元年度「大学入門ゼミ」のスケジュールは、表1のとおりである。

表1 教育学部学校教育教員養成課程「大学入門ゼミ」スケジュール

回	実施月日（曜日）	授業内容の概要
1	4月15日（月）	オリエンテーション・授業説明、教員養成課程で高めたい力 学生憲章と大学生としての自覚 [全体指導]
2	4月22日（月）	小豆島 一日研修 事前指導
3	4月27日（土） or 28日（日）	小豆島一日研修 「二十四の瞳」 出会い学習 [7クラスを2班に分け、日帰りを実施]
4	5月6日（火）	【共通コンテンツ①】情報整理の方法 [2分割実施]
5	5月13日（月）	【共通コンテンツ②】レポートの書き方 [2分割実施]
6	5月20日（月）	【共通コンテンツ③】日本語技法 [2分割実施]
7	5月27日（月）	学校参観 事前指導 [全体指導]
8	6月3日（月）	小学校参観（附高小・附坂小）
9	6月10日（月）	小学校参観振り返り/幼・中参観に向けて [クラスごと]
10	6月17日（月）	学校教育入門 授業の基礎基本 [全体指導]
11a	6月24日（月）	幼稚園参観（附幼・附幼高松園舎） ※11bに参加する学生は休講
12	7月1日（月）	【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 [2分割実施]
11b	7月8日（月）	中学校参観（附高中・附坂中） ※11aに参加した学生は休講
13	7月15日（月）	学校園参観振り返りと発表計画 [クラスごと]
14	7月22日（金）	「大学入門ゼミで学んだこと」発表準備 [クラスごと]
15	7月29日（月）	「大学入門ゼミで学んだこと」発表・まとめ [2分割実施]

本学部学校教育教員養成課程における「大学入門ゼミ」の特徴として、「二十四の瞳」との出会い学習を組み込んでいることを挙げるができる。第1回授業の際、学生に挙手を求めたところ、「二十四の瞳」の小説を読んだことのある学生は殆どいないようであったが、県教委の教員募集パンフレットにおいて触れられていたり、「二十四の瞳」に登場する岬の分教場が小豆島に着任した新任教員の研修の場として使用されたりするなど、いまだ香川の教育において「二十四の瞳」の包含する価値は大きい。本授業の一部に組み込んでいる小豆島での一日研修やその事前指導を通して、未来の教師を目指す1年次学生に、教師への憧れや教育への情熱を「二十四の瞳」との出会いを通して醸成させたいと考える。本活動は、地域に根ざした取り組みであると共に、地域に誇りを持って活動する学生を育成することにも繋がると考えている。

3年前の平成28年度、「大学入門ゼミ」の全学教員に向けたFD授業公開を本学部学校教育教員養成課程が担った。その際、今後の大学教育改善の方向性の1つである“アクティブ・ラーニング”を志向し、これまでの大学入門ゼミにおける学びを各クラスで振り返る授業回(第13回)を公開授業として設定して、学生が「大学入門ゼミ」12回の授業における学びの成果を相互交流する学習活動場面を位置づけた。このプログラムを継続・改善し、令和元年度においても、1～7組のクラス別に、実施のねらいや実施方法などを担任教員間で共有し、全クラスにおいてアクティブ・ラーニング型の授業を実施した。学びの成果を相互交流する学習活動場面においては、各担任教員が主体的に授業実施の工夫を行い、{ワークシート、ホワイトボード、付箋紙と模造紙、付箋紙とホワイトボード}など、個々のクラスでバリエーションのあるツールの活用と交流手法によって、学びの成果を相互交流する学習活動を実施することができた。

## (2) 学生アンケート(共通コンテンツアンケート)結果についての所見

平成26年度の学生アンケートに、レポートの書き方をもっと早く実施してもらいたいとの希望が多かったことから、平成27年度以降1か月ほど前倒しし、大学入門ゼミ前半において授業を実施している。そのレポートの書き方に関して、学生アンケートには「今まで曖昧だった所などがはっきりわかって良かった。特にメールの書き方はとても参考になった。」「レポートの大体の書き方がわかったので、課題レポートがしやすくなった」「レポートの書き方を学ぶことができたので、授業の提出レポートが習う前より上手く出来るようになった」「レポートの書き方について学んだことが心に残っています。なぜなら大学生になってからレポートを作成する機会が格段に増えたからです。レポートを作成する際には、読み手に分かりやすく伝えるために構成を考えたり、作成した後は推敲したりすることが大事だということが学べた点良かったです。」など、学生の必要感に応じたタイミングと内容による授業を提供できたものにとらえられる。加えて、「日本語技法のスキルを学習することで、自分が良いと思い込んでいる事柄や誤認について正しく知り、大学でのより良い学びに繋げることが出来た。」「プレゼンテーションの方法は、社会人になっても必要なことであるため、コツを教えていただきよかったです。」

「プレゼンテーションの方法の授業で、今後の自分がどんな業種の職業についても有効な、人に自分の考えを伝える力や、自分の考えをまとめる力が身についた点が良かったと思う。」「全てこれからの大学生活の中で必要なことばかりで、新生活で何もわからなかった自分にとって救いとなった。特にレポートの書き方は分からないことばかりだったため、この講座があるのとならないのでは大違いだと感じた。」など、高校生までとは異なる“大学生としての学び方”のスキルアップの基礎を、4回の共通コンテンツの授業を通して培うことができたとともに、自分のできる達成感を感じ、将来に繋がるスキルとしての価値づけを促すことができたと思われる。

加えて学生からは、「情報整理の仕方の授業が実際にやってみてお互いに評価し合うというシステムを取っていて整理の能力をつけるのに良かったと思う。」「全てのスキル教育において、ペア活動やグループ活動が多く、楽しく学ぶことができた。」などの感想も複数寄せられた。共通コンテンツの内容を、ただ一斉講義により伝えるだけでなく、各担当教員が指導法を工夫し、「事例について実際に考えてみる」「ペアやグループごとに話し合う・伝え合う」といった、演習形式を取り入れて指導した成果として捉えられる。大学入門ゼミ全体の総括として「学んだことを整理する→発表原稿にまとめる→プレゼンテーションを行う」という学習の流れを構成し、共通コンテンツとして学んだことを実際に自らの学びに生かすプロセスを授業内で経験することにより、学習内容に対する学生の達成感・充足感をより高めることに繋がっていると考えられる。

併せて令和元年度の学生のコメントの中には「教員になるにはプレゼンテーション能力が必須になってくると思うので、基礎的なプレゼンテーションの知識を学べて良かった。」など、教員を目指す本学部の学生にとって、共通コンテンツの学びを自らの将来像と結び付けて価値付けようとする学生の姿が認められた。大学入門ゼミにおいて、大学での学びに必要な知識・技能を獲得させる「共通コンテンツ」ではあるが、教える大学教員として、学生の将来像とこれらの学びをいかに関連づけ、意味づけていくか、学生から課題を与えられているようにも感じられる。

### (3) 改善すべき点等

学生のコメントから、「レポート書き方をなるべく早く教えて欲しかった」「レポートの書き方はレポート提出が多い人にとって早めの指導があるといいと思う。」など、レポートの書き方に関する指導をより早期に実施してほしい旨の感想が複数寄せられた。教育学部の初年次教育において、学生同士の人間関係づくりを行う機会を設けることが、安心して大学生活のスタートを切るために必要であるなどのねらいから、小豆島一日研修を4月当初に実施している。そのためレポートの書き方の指導が、どうしてもその後になってしまう。一方、全学共通教育におけるクォーター制の導入により、以前より早期にレポート課題が学生に与えられる傾向にある。これらのねらいと状況をふまえて、どのような時期に・どのような方法によって、レポートの書き方に関する指導を行うのかについては、今後検討すべき課題であると考えられる。

加えて、レポートの書き方については、「どういうレポートを求めているかなどを詳しく教え

ていただけると良いかと思います」と、レポートの書き方の「正解」を示して欲しいとの学生の声もある。しかしながら、「正解」を示すことは、学生全員が一様なレポートを書き提出することに繋がるのが危惧される上、大学教育においては、各科目・各教員によって、求められるレポートの書き方も多様であることが想定される。大学1年次において、どのようにレポートの書き方に関する指導を行うことが、1つの「正解」を示すことなく、各科目・各教員から求められるレポートを書くための「学生一人ひとりの思考を促す」ことに繋がるのか、共通コンテンツで取り扱う内容と指導方法について、全学を通してさらなる検討が必要であると考えます。

今後とも、大学生として必要な内容の精選、本学学生の事例を挙げるなど授業法の工夫、ならびに、全学共通コンテンツ相互の連続性を持たせるなどの授業実施上の工夫を行いつつ、一方では学生の直近の必要性だけでなく、学生自身が「学ぶことの意味」を感じ考えられる授業として「大学入門ゼミ」を実施していきたいと考えている。

【法学部】大学入門ゼミ実施報告書 様式 (1頁におさめなくても結構です)

1. 実施の概要

\*開講数、担当者数、クラス規模、共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて記載してください。

①開講数：15回、②担当者数：8名、③クラス規模：20名、④共通コンテンツの教え方：各担当者判断、⑤担当教員間でのやり取りの仕方(←「?」)：1年生を対象にした講演会を実施している。

2. 学生アンケート(共通コンテンツについてのアンケート)結果についての所見

\*7月に実施する学生向けアンケートを踏まえて、所見をお書きください。アンケート結果は、修学支援グループからお送りします。

レポートの書き方(ノートのとり方を含む)、日本語技法、プレゼンの仕方、情報整理の方法(レジュームの作成を含む)、メールの書き方等の「共通コンテンツ」に対する評価は高く、効果があったことが認められる。

3. 教員アンケート結果(または反省会での意見交換)についての所見

\*教員アンケート結果(または反省会での意見交換)について所見をお書きください。

学生主導の進め方を中心とすることが一定の効果を導くと思われるとの回答がある。グループワークを中心に行いながらも、個人報告の行えるように工夫したとの意見があった。レポートの書き方やプレゼンの仕方について大きな効果があるとの感想があった。

共通コンテンツは、最低限の大学における授業の受け方を教えるという点については全体的に底上げをすることになるが、他方では、学生の知的好奇心を刺激することは少なく、意識が高い優秀な学生に失望を与えることにならないか、学生も研究する主体であるという点への配慮も必要ではないかという意見があった。

4. 改善すべき点等

以上を踏まえて、「大学入門ゼミ」で改善すべき点があればお書きください。『大学入門ゼミハンドブック』についての意見でも結構です。

プレゼンに関する内容について補充すべきだとの意見があった。グループワークは各グループで同時進行するため、教員の指導が全体的に十分行き届かない側面もあるとの指摘があった。学生人数を少なくできれば、より丁寧な指導ができるであろうが、現実には困難である。

アンケート集計結果からは、形式面での「共通コンテンツ」の指導については、学生の視点からは、一定の効果があったことがうかがえる。したがって、特に「共通コンテンツ」については、改善する必要性は感じられない。

## 大学入門ゼミ実施報告書（経済学部）

### 1. 実施の概要

開講数：14 クラス、担当者数：14 名、クラス規模：20 名前後

共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて：特になし

### 2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

- ・多くの学生がレポートの書き方、プレゼンの仕方を学ぶことができてよかったと述べている。
- ・説明が長く、実践する時間が少ないという指摘があった。
- ・レポートの書き方についての説明が不足しているという指摘があった。
- ・グループワークをもっと増やしてほしいという要望があった。

### 3. 教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

※14 名中 4 名からしか回答がなかった。

- ・学生のレベルの高さを評価する声がある一方で、基礎的なスキルの不足を懸念する声もあった。
- ・共通コンテンツゆえの不十分さを担当教員がさまざまな工夫（スライドの加工、配布資料の追加、グループワークの追加、レポート課題の実施等）によって補っていることが分かった。
- ・『大学入門ゼミハンドブック』については評価が高かった。

### 4. 改善すべき点等

- ・共通コンテンツで使うスライドのバージョンが古いのではないかという指摘があった。
- ・現実問題としては難しいが、ゼミの人数を減らした方がよいのではないかという意見があった。

（文責：沖公祐）

## 1. 実施の概要

### (1) 実施の概要

学生に対する希望調査により医学科学生（109名）を4ゼミ（1ゼミのみ2名）教員計5名で担当、看護学科（65名）と臨床心理学科（20名）の合同で両学科学生を3ゼミ教員計6名（各ゼミ3名、2名、1名）で担当した（医学部受講全学生数194名、前期全15コマ）。

教員アンケート回答は4通、学生用アンケートは105名の回答であった。

### (2) 共通教育スタンダードと各ゼミのテーマの関連・対応

香川大学共通教育スタンダード

- ① 21世紀型社会の諸問題に対する探究能力
- ② 課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）
- ③ 広範な人文・社会・自然に関する知識
- ④ 地域に関する関心と理解力
- ⑤ 市民としての責任感と倫理観

ゼミごとに下記のテーマで授業を行った。

#### 「健康づくりバイキング (Health Promotion)」(宮武・鈴木ゼミ)

「健康づくり」の基礎的な内容、方法の理解の上に、実際に自分自身が生活の中で実践したり、まわりの身近な人に実践を促すように説明、支援できるようになる。さらにグループで課題について適切に考察しプレゼンテーションを行うことにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

#### 「感染症と感染制御 (Infectious diseases and infection control)」(坂東ゼミ)

感染症という課題を通して自ら学ぶことを理解するとともに、そのために必要な各種の技法を習得できるようになることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。さらにグループワークを通してお互いの意見を交換しながら、作業が進められるようになることにより「① 21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応。

#### 「医療分野における X線と放射線 (Medical Use of X- and γ-rays)」(久富ゼミ)

放射線の種類や発生原理および、放射線の生体への影響・治療について、放射線に関連する資料を自ら調べ、試行錯誤や議論を行うことにより課題解決能力を身に着ける。さらに自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができるようになることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

### 「生物多様性と実験医学 (Biodiversity and Experimental Medicine)」(宮下ゼミ)

広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的にとりくみ課題を発見できることにより、「① 21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応。さらにグループワークにおいて課題を抽出し考えることを通じて、自らの意見をわかりやすく伝えることができるようになることにより「② 課題解決のための汎用的スキル」に対応。

### 「患者との対話から学ぶこと (Learning from the dialogue with patients)」(峠・石上・辻ゼミ)

文献検索やプレゼンテーション技術、レポート作成方法を身に着けることにより、「② 課題解決のための汎用的スキル」「③ 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。さらに、将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療や保険制度の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につけることにより、「① 21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。

### 「双方向学習のスキルアップ (Trying to mutually improve the learning skills)」(清水・渡邊ゼミ)

倫理的態度・大学履修上のマナーを習得することにより、「⑤ 市民としての責任感と倫理観」に対応。基本的学習スキルを取得することにより、「① 21世紀型社会の諸問題に対する探究能力」に対応。さらに、より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションをプレゼンテーションによる体験により、「② 課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応。

### 「医療における心理学 (Psychology in the medical)」(川人ゼミ)

レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルを身に付けることにより、「① 21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨くことにより「② 課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応。

## (3) 上記の内容についての実施形態

全学共通コンテンツに関しては、ゼミ担当各教員の判断により、シラバスに従い学生主体（グループワーク、学生によるプレゼンテーション等）のゼミが行われた。

各ゼミにおいて、

- ・レポートを書く前に、「全学共通コンテンツ」の資料に掲載がなかった図書館HPやCiNiiなどのデータベースでの文献検索の仕方、論文等の収集方法を教授した。
- ・教員へ各自Emailを送信したり、レポートをピアレビューしたり、プレゼンテーションをグループで作成・発表することにより、体験的に学ぶことができるようにした。
- ・異なる学科の学生同士のコミュニケーションを促進させるために、看護学科・臨床心理学科の学生が混在したグループを作った。
- ・4名ごとに分けて班ごとに発表・議論等をおこなった。プレゼンテーションに関しては、日程の終盤でプレゼンテーションの演習（発表会）をグループ単位で行った。

#### (4) 全学共通コンテンツの部分の評価方法について

それぞれのゼミでシラバスに従い、教員の判断により成績評価を行った。

## 2. 学生アンケート（共通コンテンツアンケート）結果についての所見

### (1) 評価の高かった点

大学入門ゼミについては、スキルの取得、グループワークの意義について医学部学生の評価は基本的に高い。毎年学生アンケート結果で共通したコメントとして、入学直後から必須のスキルとなる「メールの書き方」「レポートの書き方および参考文献の引用の仕方」「プレゼンテーションの方法」に関して、必要性が高いとの意見が多かった。

また、医学部ゼミの特長として、

- ・英語論文等の文献を読みプレゼンテーションに使用したこと
- ・患者様との会話機会の設定でコミュニケーションを図ったこと
- ・各講座教員の専門内容に沿う形で共通コンテンツを学ぶことにより、当該専門分野の基礎的な知識取得とともに医療従事者としての自覚をもてたこと

が等があげられている。

### (2) 改善すべき点

- ・パソコンでレポートを書く時の具体的なスキル取得、パワーポイントの具体的な使い方の取得についての要望がでていた。
- ・日本語技法および情報整理の技法に関して、直接的な効果を感じていない学生のコメントが見られた。

## 3. 教員アンケート結果（担当教員からのコメント）

### (1) 一般的所見

担当教員から、以下の感想が出ていた。

- ・教材用の ppt を用いてレポートの書き方、プレゼンの方法は非常に教えやすかった。
- ・おおむね学習の成果があったものと思われる。
- ・内容は良い。

### (2) 大学入門ゼミハンドブックに関する所見

担当教員からは、ハンドブックの内容自体については、特にコメントは出なかった。

- ・ppt 等のコンテンツで十分だったため、全く使用しなかった。PDF データでの配布で十分かもしれない。

### (3) 「大学入門ゼミ」の教育効果に関する所見

- ・メールやレポートの書き方、文献の検索方法、プレゼン方法の体得には、本講義は非常に重要な初年次科目となっている。教員が手をかければ、一定の教育効果があるように思われる。
- ・1年生に基礎的学習技術を教えることは必要と思うが、教えるのに専門的知識は必要としない。誰でも良い。
- ・医学部医学科では、1年次生の早期体験学習（チュートリアル教育）において、6月19日にスライド作成、7月3日と10日に発表会（班ごとのプレゼンテーション）が行われた。医学部医学科学生対象のゼミで、プレゼンテーションの演習（学生による発表）を行う場合、早期体験学習の前に行う等の日程調整を行うと、より高い効果が得られると思われる。

### (4) 改善すべき点

- ・授業で使用する ppt に図書館やデータベースでの文献検索の方法や論文の読み方（簡単な論文の構造（目的・方法・結果・考察）の把握など）などをレポート作成の前に組み入れられると良いと思われる。
- ・共通コンテンツを重要視するのであれば、まとめて作成いただいた同コンテンツのEラーニング受講でも良い。
- ・各全学共通コンテンツの導入部分、あるいは座学で済む内容については、e-learningにしたほうが、「全学共通」としての内容が保証できる
- ・「レポートの書き方」の中で藤田哲也編（2005）「大学基礎講座」という本を持っていないとワークができないので改良して欲しい。

## 2019年度 大学入門ゼミ実施報告書 (創造工学部)

### 1. 実施の概要

\*開講数、担当者数、クラス規模、共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて記載してください。

平成29年度創造工学部創設により、4学科260名から7コース330名への学生定員の大幅増加に伴い、開講数は12クラスから16クラス、担当者は12名から16名に増加した(1クラスは20名程度)。授業の構成は、コース毎のガイダンスが1回、7コース共通の3回の基礎講習(安全教育講習:香川県警察高松南警察署、保健教育講習:保健管理センター・高田純講師、図書館利用講習:図書館・叶井貫一郎リーダー)、残りの12回はそれぞれのクラス単位で共通コンテンツを用いて実施した。

### 2. 学生アンケート(共通コンテンツについてのアンケート)結果についての所見

\*7月に実施する学生向けアンケートを踏まえて、所見をお書きください。アンケート結果は、修学支援グループからお送りします。

多くの学生がレポートの書き方やプレゼンテーションの仕方を学べてよかったと評価している。その一方で、レポートの書き方の講義の時期が遅すぎるといった意見が非常に多かった。第1Qが終わるくらいのタイミングだったため、もっと早く習っていればということであると思われる。コンテンツの順番の工夫はあってもよいと感じた。また、後半の各コースに分かれての回においてプレゼンテーションの実践をしているが、その回数が多すぎるといった苦情もあった。コンテンツの中にはいらぬものもある、という意見もあり、内容を厳選してクォーター科目にしてもよいかもしれないと感じた。

### 3. 教員アンケート結果(または反省会での意見交換)についての所見

\*教員アンケート結果(または反省会での意見交換)について所見をお書きください。

16名中6名より回答があった。

#### ○共通コンテンツを教えてみて、考えたこと、感じたこと

概ね好評。ただし、内容が易しすぎる、文理で教え方や内容を変えるべきという意見もあった。

#### ○共通コンテンツを教えるにあたっての工夫

電子メールに関しては情報モラル・セキュリティに関する話題を取り入れてもよいかも、工学部で必要な事項を追加したなどの意見があった。コース教員の紹介を行ったところもある。

#### ○大学入門ゼミハンドブックについて

理系の事情も考慮したつくりにしてほしい、役に立っていないという意見もあったが、多くは特に改善の必要は感じていない。

#### ○大学入門ゼミの教育効果

目に見える教育効果はあまり高くないという意見が複数。少しずつ意識を高めていくためのステップとしてはあり得る。

### 4. 改善すべき点等

以上を踏まえて、「大学入門ゼミ」で改善すべき点があればお書きください。『大学入門ゼミハンドブック』についての意見でも結構です。

一部のe-learning化。興味を持ってそうなグループワークを中心に実施した方がよい。企業紹介や将来像の提示などを取り入れるとよい、など。

### 1. 実施の概要

\*開講数、担当者数、クラス規模、共通コンテンツの教え方、担当教員間でのやり取りの仕方などについて記載してください。

昨年度と同様です。6クラス編成、6教員(内継続4名、新規2名)、1クラス25名程度でした。残念であったのは昨年度まではドロップアウトした学生がいなかったにもかかわらず、本年度は3名が途中から不登校になったこと(ほかの講義も同様ですが…)。このように該当学生を早期発見し面談等の対応ができる体制が構築できていた点はよかった。共通コンテンツの指導内容は担当教員が講義開始前に打ち合わせを行い、ルーブリックに沿った内容に統一することで格差を軽減する試みを実施している

### 2. 学生アンケート(共通コンテンツについてのアンケート)結果についての所見

プレゼンテーションのスキル、グループワークのスキルについて高評価であった。一方、先生との意思疎通、内容が単調、教員の「ほめる」ことの欠如について指摘があった。全体的には本年度も満足度の高い評価が得られたと考えられる

### 3. 教員アンケート結果(または反省会での意見交換)についての所見

自身も含め担当教員が忙しく回収率が悪かった点が反省点です。農学部では倫理教育に重点をおいており、これに関する香川大学の動画を利用しましたが、パワーポイントもあればよかったと思います。教員と学生の意思疎通について課題がありました。

### 4. 改善すべき点等

以上を踏まえて、「大学入門ゼミ」で改善すべき点があればお書きください。『大学入門ゼミハンドブック』についての意見でも結構です。

PBLにおけるグループワークを円滑に進められるよう、ホワイトボード(40枚)、iPAD(10台)を買っていただきました。すべてのクラスでグループワークやアクティブラーニングに活用していただきました。さらに、外部から講師を読んで話題提供をいただきPBLに活用していただいたクラスもありましたが、農学部の共通経費を使用したこともあり、事前に計画するよう指摘を受けました。

大学の教育方針にかんがみて大学入門ゼミだけで、学生の学びをデザインすることは難しいと考えました。そこで、農学部では、本年からは1年次でキャリアプランの作成(応用生物科学概論で学修目標を考えてもらう)と学びのスキル習得(大学入門ゼミで専門教育に必要な基礎的なスキルを身に付けてもらう)、2年次以降でキャリアプランのふりかえり(応用生物科学実習)、学びのスキルの実践(コース実験、課題研究)といった流れをつくり、学生がスムーズに専門教育に進めるような試行錯誤を行っています。

キャリア形成用学修ポートフォリオシート 1年次前期

2019年7月24日(水)

学籍番号

氏名

自分史 (得意不得意・頑張り・自慢・反省・将来の夢・エピソードなど)

自分史の評価： 学修への取り組み \_\_\_\_\_ 点 学業成績 \_\_\_\_\_ 点

将来像 (卒業後の自分は？・職種や職業？・将来のために必要な努力など)

今の私 (専門的な授業への適性・授業内外の学修への取り組み・学生生活など)

現在の自分の評価： 知識・スキル \_\_\_\_\_ 点 学修時間 \_\_\_\_\_ 点  
サークル部活動 \_\_\_\_\_ 点 友人関係 \_\_\_\_\_ 点 アルバイト \_\_\_\_\_ 点 食生活 \_\_\_\_\_ 点

4年間の学修計画・目標（学びたい学問・希望コース・挑戦したいことなど）

アドバイザー教員からのコメント

このシートは、アドバイザー教員からのコメントを記入後、学務係でコピーを保管し、原本は返却します。2年次前期のグループミーティングでも活用しますので、ファイルに閉じて大切に保管してください。また、各自において、ふりかえりや追加・更新を行い、自分キャリアデザインを記録に残していきましょう。

原案作成：カリキュラム委員長 高田（2019年 Ver.1）